

第三回 海外留学僧派遣育英会総会





四年間で計十七人に

善光寺海外留学
僧派遣育英会

第三回総会開く

善光寺海外留学僧派遣育英会（黒田武志理事長、事務局＝横浜市港南区日野町1604、善光寺内）の第3回総会が8月23日午後1時から善光寺で開かれ、新たに決定した昭和63年度の第4期留学僧5人に辞令と助成金が手渡された。この日は留学僧のOBや関係者らが各地から集まり、同育英会理事の駒沢女子短期大学教授・東隆眞氏による善光寺育英会の将来についての講演も行なわれた。

異教徒からも高い評価

同育英会は、これまでに六十年
度・第一期〓二人、六十一年度・
第二期〓四人、六十二年度・第三
期〓六人の計十二人を留学僧とし
て採用、タイ、アメリカ、インド、
スリランカ、日本（海外からの留
学）の各地へ派遣し、育英基金を
給付してきた。

今回、第四期留学僧として当初

四人を決定、その後、一人を追加し、計五人が総会の席上発表された。追加されたのは名古屋大学大学院博士課程に在学中の森雅秀氏(二二六)で、インド・チベット仏教の儀礼面の研究をさらに深めるためロンドン大学東洋アフリカ学院の学位取得コースへの入学を許可され、十月からイギリスに留学する。これにより留学僧は合計十七人になった。

総会に先だつて、善光寺の「釈迦殿」で本尊上供が営まれた。はじめに佐藤俊明常務理事(千葉県・曹洞宗龍光寺住職)が経過報告を兼ねて挨拶し、「石の上にも三年」というが、発足以来四年でよう

やくこの育英会も内外から注目され、評価されてきた。責務のますます重いことを痛感する」と述べた。

導師の黒田理事長が本尊に拈香し、法語を唱え、参加者全員で般若心経を誦した。引き続き辞令伝達が行なわれ、まだ日本にいてこの日参加した星宮智光氏とバシュー・ルース浄信さんの二人の留学僧に辞令と助成金が黒田理事長から手渡された。

記念撮影の後、一階の客殿で東隆眞氏が講演し、善光寺の育英事業について客観的な評価を引きながら、その歴史的意義に言及。黒田理事長の誓願により設立された

育英会が「世界的観点から、異教徒(キリスト教)の人からも高く評価されていることを肝に銘じなければならぬ」と述べた。

また「心の時代と言われるが、物質に対する精神というような理解であつてはならない。物と心の調和による『こころ』でなくてはならない。二十一世紀に向けて、互いに誓願を持って生きていかなければならないのではないか」と語り、「育英会の助成により世界で学んだ留学生たちが共に協力し、世のため人のために尽くすとともに、後輩の人々のために新しい道を開いてほしい」と期待の言葉を贈った。

この後、黒田理事長が挨拶し、「私はいま五十歳なので、あと十年は育英会にお尽くししたい。還暦までには留学僧は七、八十人になるだろう。やせ我慢をしているが、世のため人のため、そして釈尊のために、やらせていただきました」と述べた。

総会では新美昌道事務局長（東京都・曹洞宗福嚴寺住職）が現況を説明し、タイに山田長政の供養塔を建立する計画や善光寺開創二十周年記念事業について報告され、留学僧の体験をどう生かすか、また何をなすかについての原稿を善光寺の機関誌に掲載していくことなどを決めた。



育英会開かる。



善光寺海外留学僧派遣育英会（黒田武志理
 事長、事務局〓横浜市港南区日野町二六〇四、
 善光寺内）の第三回総会が8月23日午後1時
 から善光寺で開かれ、新たに決定した昭和63
 年度の第4期留学僧5人に辞令と助成金が手
 渡された。この日は留学僧のOBや関係者ら
 が各地から集まり、同育英会理事の駒沢女子
 短期大学教授・東隆真氏による善光寺育英会
 の将来についての講演も行なわれた。

本文より



辞令交付